

報道関係者 各位

2022年4月7日

オプテックス株式会社

(東証プライム上場 オプテックスグループ)

オプテックス、経済産業省「DX 認定事業者」の認定を取得 グローバル視点で課題解決を推進

オプテックス株式会社（本社：滋賀県大津市、代表取締役社長:上村 透、以下「オプテックス」）は、2022年4月1日、経済産業省が定める「DX 認定事業者」の認定を取得いたしました。これは、オプテックスの経営ビジョンや事業戦略、DX 推進体制をはじめとする取り組みが、経済産業省のDX 推進指標に基づく認定基準を満たすとともに、ステークホルダーへ適切に情報開示していることなどが評価されたものです。



■当社におけるDX

ICT やIoT、クラウド技術の進展・普及によってセンサーとインターネットは簡単に繋がれるようになり、センサーから得られるデータの重要性が高まっています。一方で、リーマンショックや新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、急激に変化する社会情勢に迅速に対応するため、オプテックスでは長期に渡って経営基盤を強化するとともにDXを推進してまいりました。

■オプテックスのDX 推進「3本の柱」

1. ビジネスモデル変革（Business DX）

従来の製品のみを生産・販売するビジネスモデルを変革。センサーとIoTを活用し、お客様や社会の課題を解決するソリューション・サービス事業を展開しています。

【サービス事例】



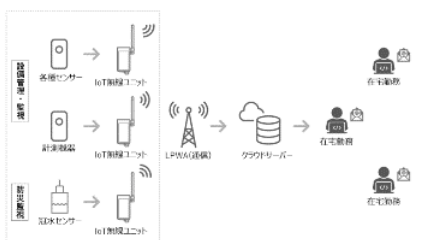
IoT 防犯センサー空き家遠隔見守りサービス



画像遠隔モニタリングサービス



自動ドア遠隔モニタリングプラットフォーム



工場設備や水質のIoT 簡易モニタリング



駐車情報管理マネジメント



自動ドア連携情報配信サービス

2.グローバル業務改革（Inner DX）

グローバルに事業を展開するオプテックスでは、世界中に経営データが存在し、また管理システムも乱立していました。そこで経営基盤の刷新や IT インフラの構築、サプライチェーンマネジメント改革を推進。グローバルでの業務標準化に加え、リアルタイムで経営状況を把握できる仕組みを構築し、課題の早期発見と意思決定の迅速化を実現しています。

3.人財の強化

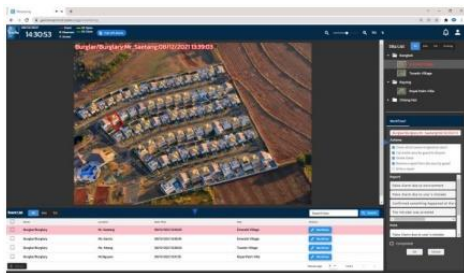
経営層が中心となって DX 化を推進。経営資源を適切に活用するとともに、DX 推進組織を構築するなど企業文化や風土から変革。全社における IT リテラシーの向上や、人財育成を行っています。



DX への取り組み詳細：<https://www.optex.co.jp/our-company/csv/DX.html>

【直近の Business DX のご紹介】

2/15 東南アジア向けクラウド型防犯監視システム「GENIO Map Cloud」を発表



世界初となる消費者対象のクラウド型リアルタイム防犯監視プラットフォームを開発。低価格と充実した機能を備え、ゲートドコミュニティ、工場、倉庫などの中小規模事業所における警報監視・管理のためのセキュリティワークフローを、オールインワンで簡単に管理できるソリューションです。

（タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア向け）

2/17 水質管理を DX 化する「WATER it データマネジメントサービス」を公開



オプテックスのセンシング技術と IoT 技術を活用。水質管理の DX として、現場の負担を大幅に削減する目的で開発。自治体や各種工場施設等において、遠隔かつリアルタイムでの水質管理を実現します。また既に現場に設置済みのセンサー※とも連携可能で、安価に導入しやすい点も特徴です。

（※センサータイプによる）

オプテックスは今後も戦略的な DX 推進を通じて強固な経営基盤の構築を進めます。また、あらゆる社会課題をセンサーを通じたビジネスで解決し、世界中の皆様に安心・安全・快適な暮らしを提供してまいります。

■本件に関するお問い合わせ先■

オプテックス株式会社 広報・販促課 蔭山、岡井

e-mail：oj-pr@optex.co.jp

TEL：077-579-8000

URL：<https://www.optex.co.jp/>